CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

1-1 建物概要			
建物名称	熊本銀行 健軍ビル	階数	地上13階、地下0階
建設地	熊本市東区新生1丁目118, 81, 81-2	構造	2種類以上
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	390 人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,集合住宅,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年6月21日
敷地面積	2,371 ㎡	作成者	梓設計 九州支社
建築面積	845 ㎡	確認日	2024年6月21日
延床面積	4,756 ㎡	確認者	梓設計 九州支社

1-2 外観

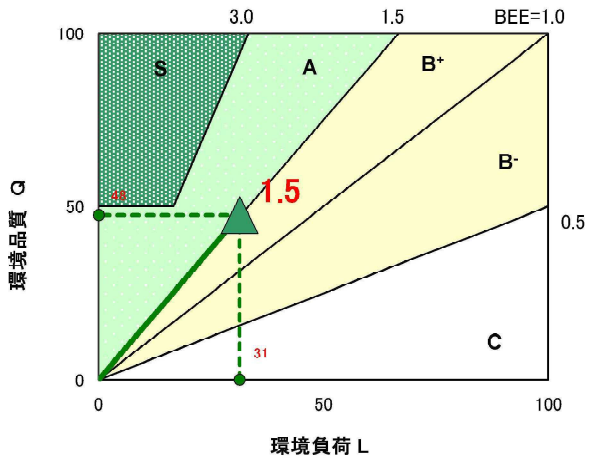
2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★☆

BEE = 1.5

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

22%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

87

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	104.6
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	66.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	84.0

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

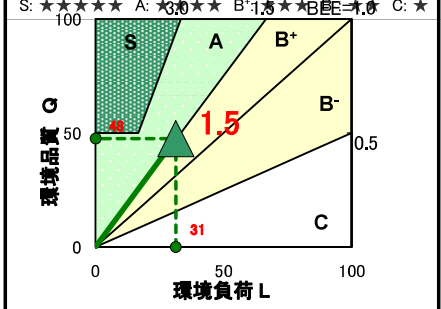
建物名称	熊本銀行 健軍ビル	階数	地上13階、地下0階
建設地	熊本市東区新生1丁目118, 81, 81-2	構造	2種類以上
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	390 人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年6月21日
敷地面積	2,371 ㎡	作成者	梓設計 九州支社
建築面積	845 ㎡	確認日	2024年6月21日
延床面積	4,756 ㎡	確認者	梓設計 九州支社

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.5 ★★★★☆

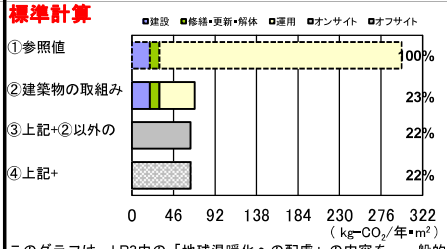
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ BEE=1.5 B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

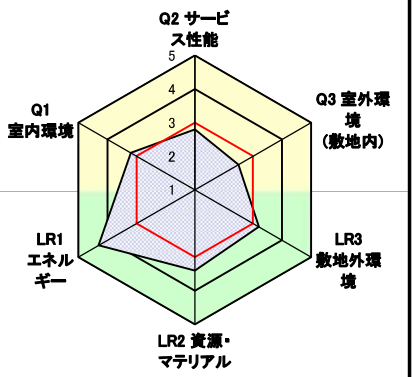
☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

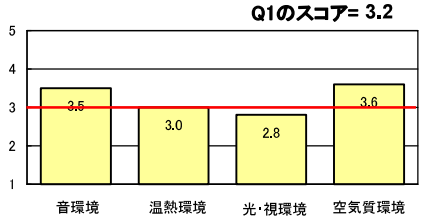
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



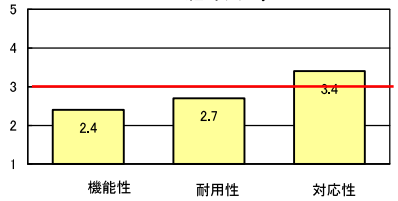
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 — Q のスコア= 2.9

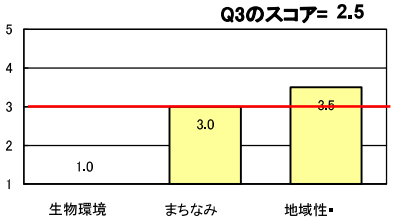
Q1 室内環境 — Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能 — Q2のスコア= 2.8

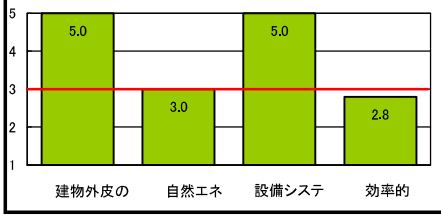


Q3 室外環境(敷地内) — Q3のスコア= 2.5

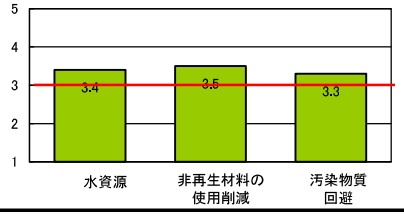


LR 環境負荷低減性 — LR のスコア= 3.7

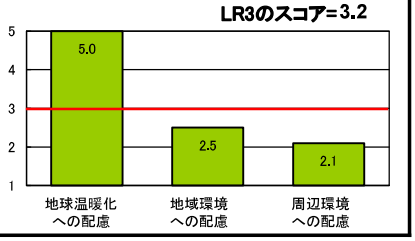
LR1 エネルギー — LR1のスコア= 4.3



LR2 資源・マテリアル — LR2のスコア= 3.4



LR3 敷地外環境 — LR3のスコア=3.2



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点= 87

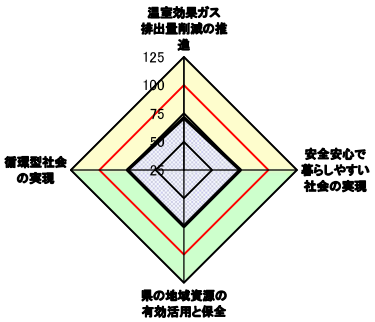
重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進 — 104.6

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現 — 66.2

重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全 — 75.0

重点事項4:循環型社会の実現 — 84.0

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
熊本銀行　健軍ビル

評価点が3超の項目　水色セル欄に数値やコメントを記入
⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質						2.9
Q1　室内環境			0.40		-	3.2
1 音環境		3.8	0.15	3.4	1.00	3.5
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.47	3.0	0.50	
1.2 遮音		4.7	0.47	3.8	0.50	
1 開口部遮音性能	建物全体・共有部及び住戸開口部遮音性能：T-2	5.0	0.87	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.13	3.0	0.30	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）	フローリング遮音性能：LL-45	3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.07	3.0	-	
2 温熱環境		2.4	0.35	3.3	1.00	3.0
2.1 室温制御		2.7	0.50	3.7	0.50	
1 室温		3.0	0.54	3.0	0.63	
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」等級4を超える性能	3.0	0.33	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		1.0	0.12	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.6	0.25	2.9	1.00	2.8
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.5	0.30	
1 昼光率	住宅部分昼光率：1.7%	1.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	庇の設置及び事務所部ブラインド、住居部カーテンレール設置	3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	1.0	0.25	
4 空気質環境		3.8	0.25	3.5	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.57	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	内装材はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.4	0.37	2.6	0.38	
1 換気量	30㎥/h人を確保	4.0	0.44	4.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.11	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.44	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.07	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物内の喫煙禁止	5.0	1.00	-	-	
Q2　サービス性能		—	0.30	-	-	2.8
1 機能性		3.6	0.40	1.8	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	1.0	0.60	
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペース10㎡以上	4.0	0.11	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.11	1.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	0.78	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.1	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	0.11	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	休憩スペースが執務スペースの約11%	4.0	0.11	-	-	
3 内装計画		3.0	0.78	3.0	0.50	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	充実した取り組みに9項目該当	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	充実した取り組みに8項目該当	5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.1	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり		4.6	0.10	4.2	0.50	
1 階高のゆとり	事務所部階高4.2M以上、住宅部階高3.1M以上	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	事務所部壁長さ比率：0.21	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.10	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.80	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		—	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	評価ポイント:4	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.7
LR1 エネルギー		—	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	十分な断熱計画	5.0	0.19	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.47	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		2.8	0.20	-	-	2.8
集合住宅以外の評価		2.5	0.33	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		3.0	0.67	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		—	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	洗浄水量6L/回（擬音装置有）・UBキッチン水栓：節湯タイプ	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リノリウム：屋内床、防滑シート：屋外床、塩ビシート：屋内床	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体＋軽鉄＋仕上材及び、躯体＋GL工法＋仕上材	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	現場発泡ウレタンはノンフロンタイプ	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	評価ポイント:4	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

熊本銀行　健軍ビル

印刷：モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作：改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

	計画上の配慮事項　　※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	地域のランドマークとなり、地域に親しまれる環境配慮型の建築を計画。
Q1 室内環境	店舗及び住宅部分のサッシには、LOW-E複層ガラスを使用し、熱負荷を抑え、またシックハウス対策として、F☆☆☆☆建材を採用し、室内環境に配慮している。
Q2 サービス性能	建物全体としてバリアフリーな建物とし、また将来の設備更新に配慮した計画としている。
Q3 室外環境 （敷地内）	主要道路と建物の間に緑化を行うことで室外環境の向上を目指し、また隣地境界との間に目隠しを設置することで、近隣家屋とのプライベートに配慮している。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化、及び太陽光パネルの設置を行い、省エネに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	住戸台所のキッチン水栓及び浴室のシャワーは節湯型とし、水資源に配慮している。
LR3 敷地外環境	建物を敷地北側の道路に寄せて配置することで、南下に広がる住宅街との離隔距離をとるように配慮した。
その他	別棟駐輪場：延床面積 29.37㎡、建築面積 20.97㎡

熊本県重点評価結果 スコアシート　※手動入力は不要	実施設計段階
建物名称	*熊本銀行　健軍ビル*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		87
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				104.6	0.40	41.84
	Q1-2.1.2　外皮性能	4.3	0.05			
	Q1-3.1.3　昼光利用設備	3.0	0.05			
	Q1-3.2.1　昼光制御	3.6	0.05			
	LR1-1　建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.14			
	LR1-2　自然エネルギー利用	3.0	0.20			
	LR1-3　設備システムの高効率化	5.0	0.30			
	LR2-2.1　材料使用量の削減	3.0	0.10			
	LR3-2.3.3　交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				66.2	0.20	13.24
	Q2-1.1.3　バリアフリー計画	3.0	0.25			
	Q2-2.1.1　耐震性	3.0	0.25			
	Q3-1　生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
	Q3-3　地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
	LR3-2.2　温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
	Q3-2　まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
	LR2-1.1　節水	4.0	0.30			
	LR2-1.2.1　雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5　持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				84	0.20	16.80
	Q2-2.2　部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
	Q2-3　対応性・更新性	3.4	0.30			
	LR2-2.2　既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
	LR2-2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20：スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数